

# 第44号文芸誌「三潮」が東奥日報で紹介されました。



県内教職員の力作、12部門 69作品、テーマ投稿 29作品が収録されています。青森県高等学校文化連盟文芸部令和2年度入賞作品も掲載しています。

1冊 1,000円で販売しております。

ご興味のある方は、総務課(017-721-1310)へご連絡ください。

東奥日報 2020年12月22日(火) 朝刊掲載

284ページにわたって、幅広い創作活動の成果を披露している。

三沢市寺山修司記念館館長の佐々木英明さんが「寺山さんと出逢うまで」を特別寄稿。13歳上の寺山は俳句、佐々木さんも詩で、それぞれ創作活動に打ち込んだ青森での青春時代。高校卒業後に、寺山が主宰する演劇実験室「天井桟敷」に入団するまでの歩みをつづった。巻頭グラビアには中学・高校時代の寺山の写真や俳句作品なども掲載している。

「オリンピック」のテーマ投稿には29人が俳句や短歌、狂歌、川柳で作品を寄せた。このほか、高村玲さん、三浦順一郎さんがコロナに関する随想を発表。文芸評論は佐々木唯雄さんの『「明暗」を探る』、小説は畑山信一さんの「狂乱の巻」、木村修さんの「モンゴルにスキーを―白銀に国際交流の輪をつなげて―」など。

本年度の県高校文化連盟文芸部の入賞作品も載せた。

三潮は年一回、毎年12月に発行。退職・現職の教員11人が編集委員を務め、半年かけて完成させている。頒価千円。問い合わせは県教育厚生会(電話017・721・1310)へ。

(山崎光弘)

第44号  
2020

三潮

短詩文芸や小説も「三潮」第44号発行

教育厚生会

県教育厚生会(渡部秀逸理事長)は、文芸誌「三潮」第44号(写真)を発行した。現職・退職を問わず教職関係者から募った短歌や俳句、川柳といった短詩文芸、詩、小説、随想などを掲載。

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。